

ふるさとほらど通信

第12号 平成24年3月15日

ほらどまちづくり委員会



せきスポーツクラブ主催による『岐阜県玉入れ大会』に今年もキウイスportsクラブから7チームが参加しました。キウイスportsクラブ所属のチームは毎年上位入賞を果たしてきましたが、今年も洞戸板取少年野球チームAの総合2位を最高に各クラス毎にそれぞれのチームが優秀な成績を納めました。



あいさつ運動の推進

幼い頃、我が家に町から訪れられた親戚の方が両親に「見知らぬ方から、こんにちとは声をかけられた」と不思議そうに話され、両親が「田舎では顔を合わせれば誰にでもあいさつをする習慣がある」と話していたことを思い出します。当時は、数キロメートル離れた地域への移動は、徒歩や自転車が主で私達も小中学校の登下校時には、地域の人をはじめ、郵便物を集配される郵便局員の方、道路を補修する作業員の方などに顔を合わせることが多く、あいさつをすることが常識と教えられたものです。近年、移動手段が車に変わり、地域内でお互いに顔を合わせることが少なくなったことと、子ども達の遊びが屋外から屋内に変わるなど、地域住民の生活環境が大きく変わったことなどで、あいさつを交わす習慣が遠のいているように思われます。

洞戸小中学校では、あいさつ運動推進の一環として、児童、生徒さんが「桃太郎旗にあいさつの標語」を掲げ、運動会の会場や各家庭の軒先などに旗を立て啓発に取り組んでおられます。この取り組みに関市社会福祉協議会洞戸支部をはじめ10団体が桃太郎旗を購入する資金を提供して、あいさつ運動に支援を頂いております。

あいさつ運動の推進は、地域あげて取り組む必要があるという思いを寄せている時、昨年9月に関市社会福祉協議会と洞戸支部によって開催された、地域ふくし懇談会の中で「子どもを地域で見守り育てよう」をテーマにあいさつ運動推進について意見が交わされ、「家庭内でのあいさつを基本とし、併せて大人も積極的にあいさつを行い、子どもに手本を示すよう地域あげて、あいさつ運動を展開してはどうか」という意見が出されました。このご意見を現在進めている関市社会福祉協議会洞戸支部の『小地域住民福祉活動計画』に反映させていただき、出来上がった計画書は各家庭に配布する予定です。

あいさつ運動を推進するには、皆様にご理解とご協力をいただき『小地域住民福祉活動計画』の実行と関市教育委員会が募っている「子ども見守りボランティア」に多くの方が登録されて、通学路で子どもの登下校を見守り、この時に「あいさつ」を呼びかけ地域の皆さんと子どもが絆を深め、子どもにあいさつをする習慣を身につけてもらうことと、併せて大人も積極的にあいさつをすることが重要と思います。あいさつは、日常生活や子どもが社会人になった時の常識です。洞戸地域の総力であいさつ運動の推進が達成できることを願うものです。



関市青少年健全育成会洞戸支部 支部長・野村茂

心に残る歌

長屋芳子

高齢者のつどい。ある曲（歌）が流れました。すると「小さい頃歌ったよな」「学校でみんなといっしょに歌ったよ」「なつかしい歌だね」と、まわりは明るい会話につつまれました。そして昔を懐かしむように何度も繰り返し歌い続けていました。

戦後生まれの私には、とても新鮮な歌声、響きで心地よいものでした。

歌は、元気とやすらぎをそして、人の心まで豊かにしてくれるものだのと、実感したのです。

日々時間に追われる現在社会。人々の価値観が多様化する中であっ



て、例えばかつて当たり前であったちゃぶ台を囲んでの一家だんらんの時間など今どれほどあるでしょうか。個々の生活に重きを置くために、人と人をつなぐ機会・場が少なくなったようにも思えます。そんな中、『高齢者のつどい』は、お年寄りが昔を懐かしく思い、歌に一人ひとりが共鳴・共感し、喜びを全身で現わすひとときでした。そんな姿に接し、歌の力・大切さを改めて感じました。

皆さんは、自分の歩んできた証として記憶にそして楽しい思い出として残る歌がありますか。私は「なつかしく 心にのこる 歌ありて 心やすらぐ ひとときみつめ」という心境かな…。

通元寺で「地域ミニ集会」を開催

平成23年11月18日

通元寺集会場（17名参加）

「地域ミニ集会」のご案内をしたところ、通元寺自治会長様はじめ多数の皆様にお集まりいただき、開催することが出来ました。地域の状況や福祉に関する課題をお互いの立場で協議・検討いただいた事に対し厚くお礼申し上げます。

東日本大震災では、社会福祉協議会がボランティアセンターを設置。「テレビ・マスコミの報道等で

社会福祉協議会の活動や役割が少しではあるが分かった」とのご意見を多くいただきました。

皆様からのご意見等、自由討議での内容を抜粋してご紹介いたします。

皆様のご要望に100%お応えはできませんが、皆様の貴重なご意見を参考に身近な課題から活動に移して行きたいと思います。

自由討議

◎包括支援センターは病院の転院などの手配はしてもらえますか？

ー包括支援センターの仕事は在宅介護に関する相談であるので、介護保険の説明やケアマネジャーの紹介、施設への入所に関するアドバイスはするが、転院の手配等は出来ません。

◎老人福祉センターは時間や曜日に制限があり使いにくい。いつでも使えるようにしてほしい。また、受付で名前を書くことに抵抗がある。

ー利用日や開館時間は、市の条例で決まっている。洞戸だけ例外を設けることは出来ないが、このような意見があった事は関市高齢福祉課へ報告する。名前の記入については利用者数の把握や利用中の事故等、緊急時に対応するため必要である事をご理解願いたい。

◎地域バスや岐阜バスの利用者が少ない。関市から補助金を出しているが無駄ではないか？

ー洞戸地域は公共交通機関が少ない。高齢者家庭では車に乗れない方が多く、地域バスやデマンドバスは高齢者の大切な足になっている。決して無駄ではない。逆に住民がもっと利用して充実を図るべきである。

◎社協から各自治会へ除雪機をいただいております、大変助かっている。

通元寺自治会の除雪ルール

①30cm以上の積雪時に使用 ②除雪作業は2人以上で行う（保険は自治会で加入） ③通学路・公民館・お宮やお墓の入口・昔からある生活道路（赤道）を優先的に除雪する ④一人暮らし宅は地域からの声が出たら応援する

ー各地区の皆さんも除雪の目的・公平性の観点から、使用に当たっての具体的なルールを策定してはいかがですか。

◎洞戸はタクシーが無いので急病、通院、買い物に困っている。

ー社協には“福祉車両貸出事業”があり、洞戸には7人乗りワンボックス車両があるので利用してほしい。家族で運転できない時は、運転ボランティアでも貸し出し可能。

ただ今、運転ボランティア募集中です。



おせち料理配膳事業

70歳以上の一人暮らしの方で、年末年始をお一人で迎えられる40名の皆さんへ、12月31日に「おせち」をお届けいたしました。お味はいかがでしたか。

要介護者お見舞い事業

在宅で介護を受けておられる「要介護度3」以上の17名の皆さんに、介護用品券（@500円券×6枚）をお届けいたしました。どうぞご利用ください。

どんど焼き

洞戸地区では昔から、正月の飾り物や門松を『松の内』が終わると各地区で燃やす“どんど焼き”の風習があります。昭和30年代まではどんど焼きの前日に子ども達（小学生）が各家庭の門松を集めて回り、皆で集めた門松を他の地区からの侵入者（遊び心）に盗まれないように、橋の下などにムシロを吊るした監視小屋を作り、暖を取りながら徹夜で門松の番をしました。大野地区だけでも和田・筏場・中村・大東の4地区で行っていました。（今は下洞戸全体で行っている）

こうした行事を通して、子どもなりに先輩・後輩の連帯や絆を深める事が出来ました。どんど焼きのオキ（炭火）で餅を焼いて食べると一年中風邪をひかないとか、どんど焼きで焦げた松・梅の枝を持ち帰り屋根に上げておくとその家は一年中火事にならない、との言い伝えがありました。大人も子どももどんど焼きを正月の終わりの行事として楽しみにしていたものです。そうした風習も高度経済成長の中でだんだん風化し、徹夜で番をするということは無くなりましたが、今でも子ども達は“どんど焼き”を楽しみにしております。

今回は、下洞戸地区の“どんど焼き”を紹介します。今年は、1月15日の早朝から行われました。子ども達が各家々の正月飾り、昨年のお札、書初め等を集めて回りました。親御さんやおじいちゃん、おばあちゃんが見守る中、“どんど焼き”が始まりました。勢い良く燃える火、炎にあおられて天高く舞い上がる書初め。子ども達の元気の良い歓声に我々大人も感動と幸せを感じたひとときでありました。下火になるのを見計らって餅を焼き、ぜんざいを皆で食べました。餅のほか、子ども達にはお菓子が、大人達には清め酒が配られました。子ども達にとっては良い思い出になった事でしょう。

こうした行事（社会福祉協議会・三世代交流事業）を通じ地域の絆をより確かなものにして行きたいと思います。



配食サービス事業

75歳以上の一人暮らしの皆さん（今回の希望者46名）へお食事を配らせていただきました。

今回は、中部学院大学から実習生として3年生の佐藤さんと松下さんに来ていただき、食事作りから配食までの全工程をお手伝いいただきました。お二人の実習での感想を下記に掲載させていただきます。初めて洞戸へお越しの佐藤さん、松下さん、また機会がありましたら洞戸へお越しください。ありがとうございました。

先日は洞戸支部の配食サービスで実習させていただきました。ありがとうございました。

洞戸には初めて行ったため何も知らない私でしたが、活動者の方にお声をかけていただき、弁当を作りながらも様々なことを教えていただきました。弁当作りでは高齢者の方に食べていただくことを考え、薄味・適量はもちろん、色どりや盛り付けも綺麗にされており、食べるだけではなく目でも楽しめる工夫がされていました。また、手紙や雛人形の小物も添えてあり、活動者の方の思いやりを感じました。弁当作りだけではなく配食にも同行させていただき、利用者様のお宅に向かう途中にすれ違った方々にも挨拶や声をかけていただき、洞戸はとても地域住民同士の交流が深く、人の温かみのあるところだと感じました。配食サービスは独居の高齢者の方の見守り活動の一環でもあり、住民だからこそ行うことができるものだと学びました。弁当を渡した時や話をしている時はみなさん笑顔が絶えず、人と人との交流の重要性を改めて知ることができました。また機会がありましたら是非よろしく願いします。本当にありがとうございました。

中部学院大学3年 松下伴子



洞戸支部で配食サービスの実習をさせて頂きありがとうございました。

洞戸には初めて行ったことと、以前桜ヶ丘支部の配食サービスでも実習させて頂いたことがあったので二つの地域の違いからも学習し理解を深めることができると共に、あまり詳しくは知らなかった洞戸についても知ることができた貴重な体験になりました。

自分ではあまり料理をしないので同じ大学からの実習生の松下さんがやっていた、だし巻きたまごと比べると簡単な作業しかできませんでしたが、皆さんに教えて頂きながら、楽しんで実習することができました。おはぎも作るのは初めてで、あんこはきなこ比べてお米を少なくしないといけないことや、たくさんの煮魚を作るということで一度に全て入れるのではなく、数回に分けて入れる事などを知ることができると共にたくさんの量を作る現場に自分が参加するという貴重な体験にもなり、とても勉強になる一日でした。

洞戸で学んだことをこれからの学習に生かしていきたいと思っています。

ありがとうございました。

中部学院大学3年 佐藤隆洋



スキー教室 1 / 22

(ひるがの高原スキー場)

今年度は「ひるがの高原スキー場」に変更してのスキー教室でした。小学生20名の参加があり、とても充実した教室となりました。

日程の後半には“エアボード”を教えてもらい、楽しそうな笑顔と歓声がゲレンデに一杯あふれていました。



◀ スキー教室の様子

▲ 参加者全員で記念撮影

▶ エアボードを楽しむ様子



キウイスポーツクラブ

更新手続受付中

平成24年度会員更新手続受付中、3月25日までに会費を添えて、クラブ事務局（関市洞戸運動公園内）までお申し込みください。

◎子ども利用会員（中学生以下）＝年会費 1,200円（スポーツ保険料込）

◎一般利用会員（高校生以上）＝年会費 1,500円（スポーツ保険料別途 1,850円）

◎正会員（20歳以上）＝年会費 5,000円（スポーツ保険料込）

※24年度分からスポーツ保険の掛け金が改訂されましたので、子ども利用会員については値上がり分を年会費に反映させていただきます。

新規会員也大募集中

また、こんなスポーツをやってみたい…と思ってる方、クラブに入って始めちゃいませんか？
クラブが貴方のいろんな思いをお手伝いしますよ!!

洞戸地域行事予定表

※予定は、変更になる場合がありますので、詳細については、洞戸地域事務所など各関係機関へお問い合わせください。

市民の劇場 **板取山ほほえみ寄席**

(三遊亭山遊三・林家たの平 二人会)

3月17日(土)

開場：午後1時30分、開演：午後2時

会場：関市洞戸基幹集落センター

●洞戸小学校 卒業式 3月23日(金)

●洞戸保育園 卒園式 3月28日(水)

●洞戸保育園 入園式 4月5日(木)

●洞戸小・中学校 入学式 4月9日(月)

誇りの持てる地域づくりを目指して

NPO 法人洞戸村ふるさと塾は、今年度手がける「キウイの里 洞戸復興プロジェクト」の一環として、平成 23 年 12 月 9 日、洞戸産のキウイフルーツを使った試作加工品の品評試食会「**キウイの宴**」を開催し、大盛況でしたので全作品をご紹介します。

＜出品数 23 参加者 25 名＞





この「キウイの宴」の様子を含むプロジェクトの詳細は、下記のブログ等にて随時、掲載中です。是非ご覧下さい。（キウイの宴は12月20日掲載分）

＊ ＊キウイの里 洞戸復興PJ ブログ <http://ameblo.jp/kiwi-horado/> ＊ ＊

＊ ＊NPO法人洞戸村ふるさと塾ホームページ <http://www.horado.com/> ＊ ＊

キウイの里 洞戸は、まだまだ健在です！

私どもは、この熱い想いを目の当たりにして、来年度、キウイフルーツを含む地元の農産物等を利用した、加工品の生産と販売システムの構築を目論んでいます。既存あるいは新規の加工所にて、道の駅などで販売可能な地場産品を、熱意ある有志の皆さんで開発し販売して行こうというものです。

この試みに興味のある方は、お気軽にご連絡ください。

担当： 庄司 電話番号 090-3915-6770

平野 電話番号 080-6658-1237

E-mail furusato-j@horado.com



キウイの宴の数日後に開催した
加工品生産に向けた企画会議



観光農園を兼ねるキウイ畑の造作にも
乗り出しました（大野地区）

平成24年度も、私どもの活動にご理解とご協力をお願いいたします。

「キウイの里 洞戸復興プロジェクト」

平成23年度、ふるさと塾が受託して展開する 岐阜県過疎地域集落活性化支援モデル事業委託業務（後援：JAめぐみの・洞戸キウイ生産組合・関市・せきまちづくりNPO ふうめらん・ほらどまちづくり委員会）

関市議会報告

早いもので平成24年も節分が過ぎ暦の上では春という事ですが、今年は東北地方を中心に大変な豪雪となり、毎日寒い日が続いており、特に東日本大震災で被害に遭われ未だ仮設住宅など避難生活をされている方々には非常に厳しい状況であり、改めて被災地の皆様方には心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年は岐阜県にとって47年ぶりに第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」が開催されます。秋に開催されるぎふ清流国体の会場として、ラグビー、ゴルフ、ライフル射撃、剣道の4種目の競技が予定されています。また“ぎふ清流大会”ではアーチェリー、フライングディスクの2種目が中池運動公園をメイン会場として計画されています。関市を全国にアピールする事ができる素晴らしい大会となりますよう皆様の積極的なご協力をお願いします。

現在、国会では消費税増税を柱とする社会保障と税の一体改革という事で活発な論戦がされています。現行5%の消費税率を2014年4月より8%、2015年10月に10%に引き上げ、高齢化に伴う年金・医療・介護費用に充て、財政健全化を進める方針を掲げています。財政状況は2011年末時点での国の借金残高958兆円、2012年度末には1000兆円を突破し、国内総生産（GDP）の約2倍の規模に膨らむ深刻な状況であります。増税一辺倒ではなく、「身を切る改革」も着実に実行し、政治の責任を果たすべきではないでしょうか。

関市議会は平成24年第1回定例会は2月22日より3月22日までの日程で開催されています。特に今回は、平成24年度当初予算（案）・公の施設の指定管理者の指定についてなど議案として96議案が予定されています。

次回は、洞戸地域に関連した事業予算などを中心にご報告させていただきますので、よろしくお願いします。
関市議会議員 武藤隆夫

2011年夏祭り花火大会報告書

2011年8月15日に開催しました花火大会には、多くの皆様方より協賛金をお寄せ頂き、誠にありがとうございました。必要経費を差し引き、残額127,831円を東北地方の震災復興支援のために送る事としました。皆様の温かいご支援とご協力に心よりお礼申し上げます。大変遅くなりましたが、ここにご報告申し上げます。これからも地域の活性化にご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

花火大会決算書

収入

協賛金 344,500円（協賛者49人）

支出

花火打ち上げ費用	182,000円（村瀬煙火）
手数料等	14,555円（道路使用許可等）
通信費	4,000円（切手代）
消耗品	8,614円（乾電池、警護燈）
雑費	7,500円（チラシ等）

収入 344,500円 - 支出 216,669円 = 残額 127,831円

ほらどまちづくり委員会

編集後記

▶ふるさとほらど通信第12号をお届けします。次回は新年度の発行となります。

まちづくり委員会を始め各団体の事業計画や予算が出そろったのが6月初旬となり、新年度のスタートに合わせての発行とはなりません。年4回の機会に、多くの正確な情報を満載したいとの思いで時季外れの発行になってしまいますことに、皆様のご理解を賜りたいと思います。これからも親しまれる紙面づくりに努力して参りますので、ご支援をお願いします。（f）

ふるさとほらど通信 第12号

平成24年3月15日

ほらどまちづくり委員会
広報部会

関市洞戸市場294-2
関市洞戸生涯学習センター内
TEL <0581> 58-2115